

# ブリッジの判定

## まず押さえておくべきポイント

上顎指数	2	1	5	4	4	6	6	4
歯種	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
下顎指数	1	1	5	4	4	6	6	4

### 【覚え方】

- 切歯は1・・・上顎1番のみ例外的に2
- 犬歯は5
- 小臼歯は4・・・智歯も同じ
- 大臼歯は6

## Br判定の大原則

支台歯の抵抗力  
ポンティックの疲労  
補足疲労



条件a  $R - (F + F \cdot S) \geq 0$  この値が0以上になること

条件b  $\frac{F + F \cdot S}{3} \leq R$  この値が1側の支台歯のRの合計を超えないこと



## まずはやってみましょう！

		①	2	③	
支台歯の抵抗力	R	2		5	→ 7
ポンティックの疲労	F		1		→ 1
補足疲労	F·S				→ 1

このケースではF·Sは0

条件a  $7 \geq 1$

バランスのbと覚えよう

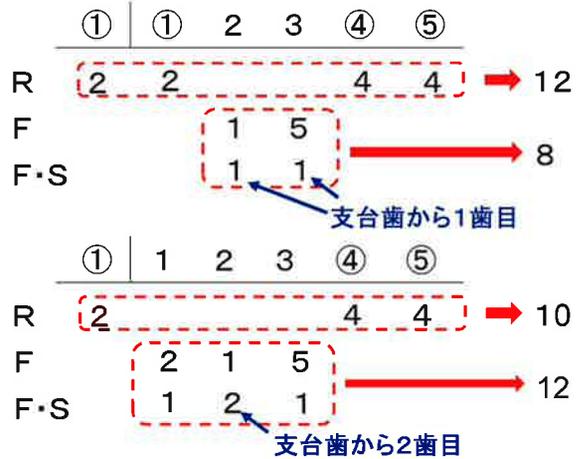
条件b  $2 \geq 1/3$   
 $5 \geq 1/3$

これを3で割ります

ともに満たせば作製可

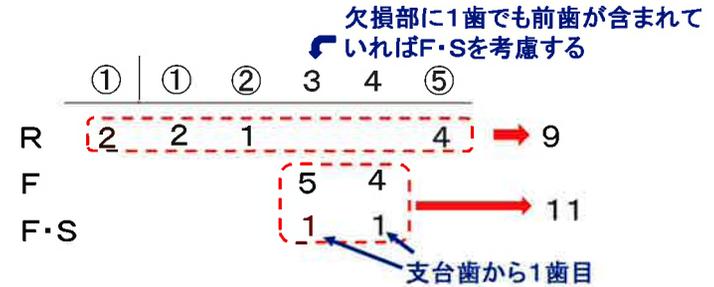
補足疲労その1 ~連続欠損~

弧状になっている前歯部を含む2歯以上の連続するポンティックは支台歯から1歯目を1、2歯目を2とする



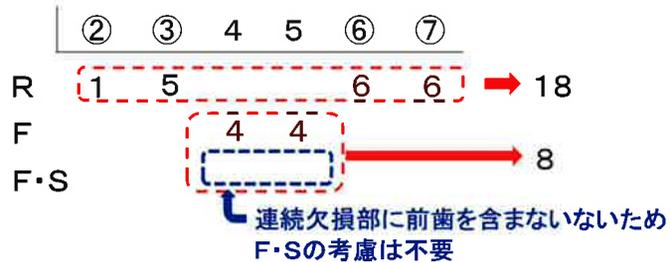
これらをもとに条件a、bを判定する<sup>5</sup>

補足疲労その1 ~連続欠損~



これらをもとに条件a、bを判定する<sup>6</sup>

補足疲労その1 ~連続欠損~



※ただし臼歯の連続欠損は2歯までしか認められていません

これらをもとに条件a、bを判定する<sup>7</sup>

補足疲労その2 ~延長ポンティック~

延長ポンティックの歯の指数の1/2

【3番が既にBrの支台などの場合、適応可となります】



【よくある7番延長Brのケースですが・・・】



延長Brは条件bを考慮しなくてよい

★★★延長Br豆知識★★★

・延長Brにb判定は必要ない

ただし…

例) 2 ① | 1 2 ③ のBrを作製する場合

このBrそのものの**条件b**の判定は必要ないが



この基本となるBr

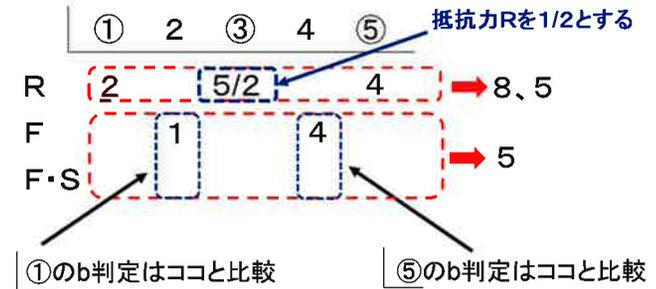
① | 1 2 ③

の**条件b**の判定を満たす必要がある

このBrはともに適応外となります

中間支台歯がある場合の注意点

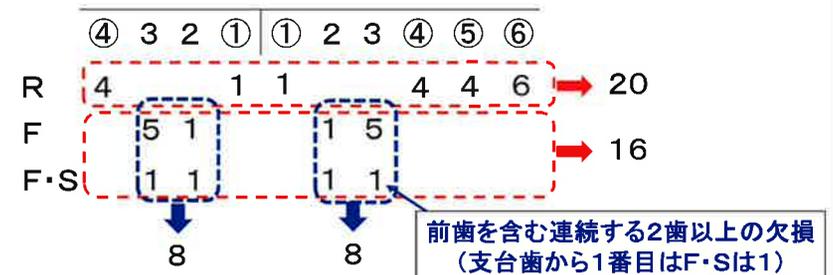
2か所以上の欠損部位を連ねたBr作製で、ポンティックの中間にある支台歯が1歯の場合、R(抵抗力)は指数の1/2とする



条件b: **隣接する**ポンティックのF+F·Sで考える

では実際にやってみましょう

ちょっとややこしいケースですが…



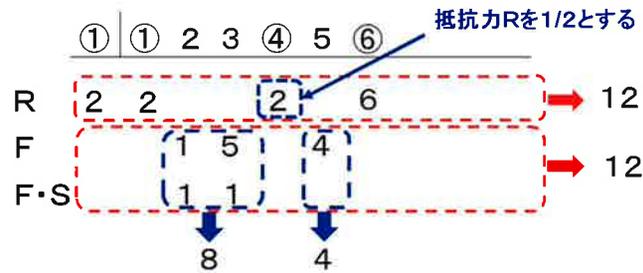
条件aは  $20 \geq 16$  で満たす

条件bは**隣接する**ポンティックの(F+F·S)/3で考えるから

④ | は  $4 \geq 8/3(2, \dots)$  で満たす

④⑤⑥は  $14 \geq 8/3(2, \dots)$  で満たす → このBrは**適・不適**

## もう1つ具体例で...



条件aは $12=12$ で満たす

条件bは隣接するポンティックの $(F+F\cdot S)/3$ で考えるから

① | ①は $4 \geq 8/3(2, \dots)$  で満たす

⑥は $6 \geq 4/3(1, \dots)$  で満たす → このBrは適・不適

## 判定の例外的な取り扱い ~事前承認不要~

② 3 ④ ⑤

判定上は保険適用外

但し、1が既に  
自費のMB、  
既に装着されているBrの支台になっている  
等の場合は保険適用になる

↓ ( 1の状態を摘要欄記載)

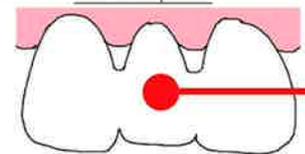
注意) 1が欠損の場合は不可

# ブリッジの取り扱い

## 歯式上では欠損がないケース ~事前承認不要~

歯式上は欠損がなくとも1歯相当分の間隙がある場合

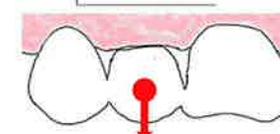
病名) ①△ | ① MT 摘要) 1歯相当分の間隙



- ・両隣在歯のいずれかの形態を模して作製
- ・指数は近似の歯種の指数として判定
- ・このケースではレジン前装金属ポンティックも可
- ・5歯以下・6歯以上に△も含めてカウント

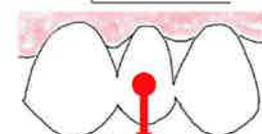
例

病名) ⑤△⑥ MT



金属裏装ポンティックも可

病名) ③△④ MT



レジン前装金属ポンティックも可 16

### 歯式上では欠損がないケース ~事前承認不要~

歯式上は欠損がなくても半歯程度の間隙がある場合

病名)  $\frac{1\Delta}{1} C$   
 $\frac{1\Delta}{C} \frac{1}{Pul}$



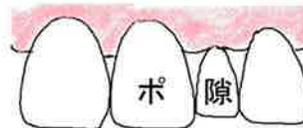
・病名はCの他、Pul・Per  
 ・△部はポンティックではなく補綴隙(30点)

Brとはなりません

### 欠損歯式より間隙が大きいケース ~事前承認不要~

欠損部にさらに半歯程度の間隙がある場合

病名) ① | 1△② MT



・補綴隙は歯数に含めないため  
 ⇒ 指数(FやF・S)に変化なし  
 ⇒ 5歯以下・6歯以上に補綴隙はカウントしないのでこのケースの場合  
 は3歯ブリッジとなる

### 歯式上での欠損 > 実際のスペース

~事前承認不要~

$\frac{① 2 3 ④}{① | ① 2 3 ④}$      $\frac{① ② 3 4 ⑤}{① | ② 3 4 ⑤}$

これらのBrは判定上は保険適用外ですが

犬歯の低位唇側転位のため間隙が1歯分しかない場合

$\frac{① 2 ③ ④}{① | ① 2 ③ ④}$      $\frac{① ② ③ 4 ⑤}{① | ② ③ 4 ⑤}$

注意)ポンティックの指数は必ず5を用いること

レジ前装金属ポンティックの請求も可

・・・として請求可

摘要欄)犬歯低位唇側転位により1歯分の間隙

### 歯式上での欠損 > 実際のスペース

~厚生局への事前承認が必要なケース~

実際の欠損歯を反映した歯式では保険給付外となるブリッジであって、欠損部の間隙が1歯分少ないようなブリッジの取り扱い

歯式上での欠損

実際のスペース

$\frac{③456⑦}{③21 | 12③}$      $\frac{③45⑦}{③21 | 1③}$     又は     $\frac{③56⑦}{② | 1②}$

$\frac{②1 | 1②③}{②1 | 1②}$      $\frac{② | 1②}$

$\frac{⑤67⑧}{⑤6⑧}$     又は     $\frac{⑤7⑧}$

## 歯式上での欠損 = 実際のスペース

～事前承認不要～

小臼歯に対しレジン前装金属ポンティックが使えるケース

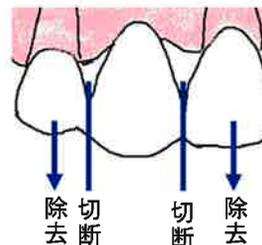
① | ① ② 3 4 ⑤ ⑥      ② ① | ① ② 3 4 ⑤ ⑥

において、4番に対し**レジン前装金属ポンティック**の算定可

21

## 判定基準を満たさないBrの取り扱い

② 3 ④ Br



～除去する場合～

実態に応じて算定可

(ポンティックのみの除去は、32点×1)

～再装着する場合～

装着料・装着材料料ともに算定不可



MBのBrを再装着する場合は？

他院にて作製したBrで、かつ2年以上経過したと思われる場合に限り、装着料・装着材料料の算定は可

22

## 延長ブリッジ

23

## 延長ブリッジ

～一般的な取り扱い～

小臼歯、側切歯、第2大臼歯にのみ認められている

支台歯は2歯以上必要(連続2歯でなくても可)

適応の判定において、条件bの要件を満たさなくてもよい

ただし、例) 2① | 12③ 等のケースにおいては① | 12③ の設計が不適ならば不可

小臼歯、側切歯の延長ポンティック( ②③4 ① | ①2)は延長したポンティックに隣在歯が存在しない場合は適応外

24

# 分割抜歯後のBr判定

分割抜歯後の補綴処置

		下顎大臼歯	上顎大臼歯	
保存根		近遠心いずれか1根	頬側1根と口蓋根	頬側2根
単独冠		小臼歯	大臼歯+隙	大臼歯
Br	支台歯(指数)	小臼歯(R=2)	小臼歯(R=2)	大臼歯(R=2)
	ポンティック(指数)	小臼歯(F=4)	小臼歯(F=4)	不可

Brの判定にはこの指数を用います

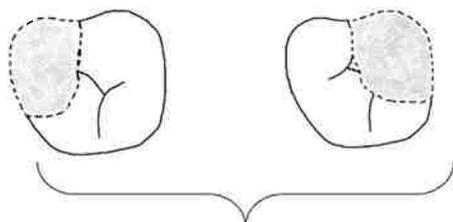
# 分割抜歯した歯は指数に注意

【上顎大臼歯】

近心頬側根抜去

遠心頬側根抜去

口蓋側根抜去



残した2根の指数 : R=2

抜去した根の指数 : F=4

口蓋根のポンティックの作製は不可



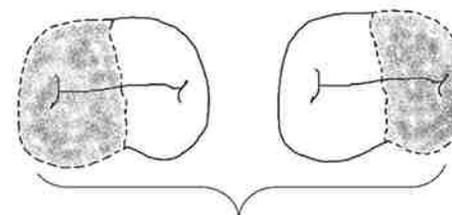
冠は大臼歯として算定  
支台歯とする場合: R=2

# 分割抜歯した歯は指数に注意

【下顎大臼歯】

近心根抜去

遠心根抜去

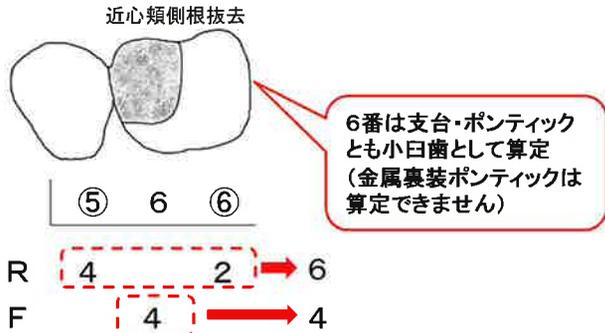


残した根の指数 : R=2

抜去した根の指数 : F=4

具体的な分割抜歯ケースで判定してみましょう

【上顎ケース1】  
(咬合面観)



条件aは  $6 \geq 4$  で満たす

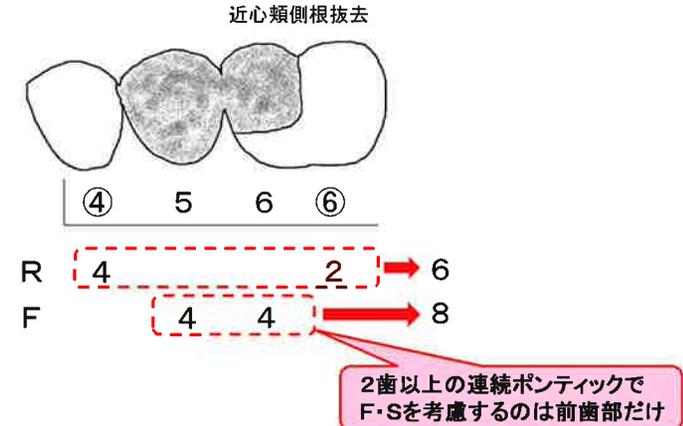
条件bも

⑤は  $4 \geq 4/3(1, \dots)$  で満たす

⑥は  $2 \geq 4/3(1, \dots)$  で満たす

このBrは適・不適

【上顎ケース2】

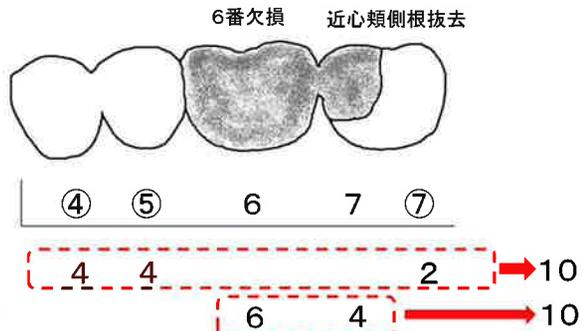


条件aで

$6 < 8$  で条件を満たさない

このBrは適・不適

【上顎ケース3】



条件aは  $10 \geq 10$  で満たすが...

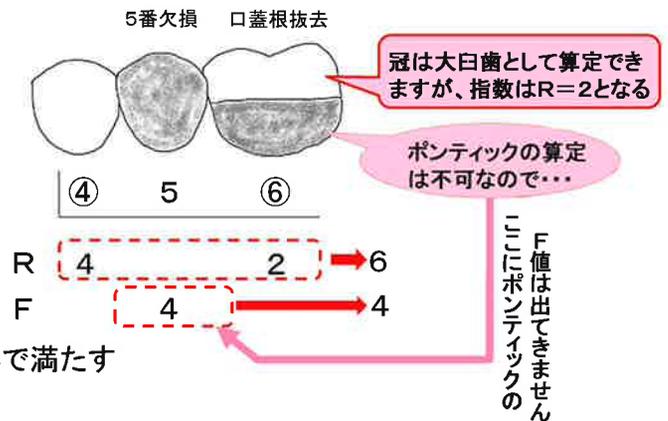
条件bで

④⑤は  $8 \geq 10/3(3, \dots)$  で満たすが...

⑦は  $2 < 10/3(3, \dots)$  で満たさない

このBrは適・不適

【上顎ケース4】



条件aは  $6 \geq 4$  で満たす

条件bは

④は  $4 \geq 4/3(1, \dots)$  で満たす

⑥は  $2 \geq 4/3(1, \dots)$  で満たす

このBrは適・不適

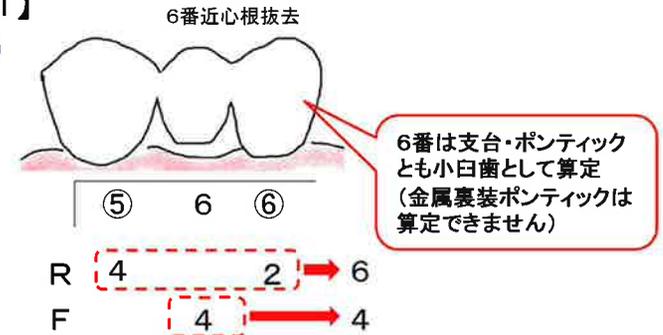
【上顎ケース5】



このケースではポンティックの算定は不可なので・・・  
ブリッジではなく通常の 56 連結冠として対応

ここからは下顎です

【下顎ケース1】  
(頬側面観)



条件aは  $6 \geq 4$  で満たす

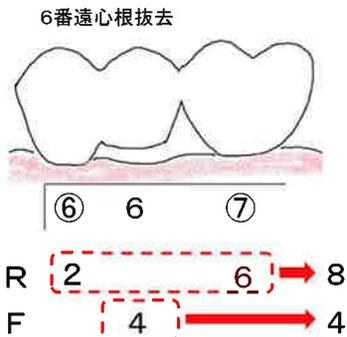
条件bも

⑤は  $4 \geq 4/3(1, \dots)$  で満たす

⑥は  $2 \geq 4/3(1, \dots)$  で満たす

→ このBrは適・不適

【下顎ケース2】



条件aは  $8 \geq 4$  で満たす

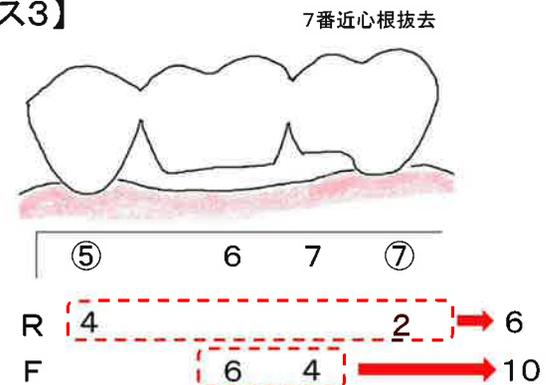
条件bも

⑥は  $2 \geq 4/3(1, \dots)$  で満たす

⑦は  $6 \geq 4/3(1, \dots)$  で満たす

→ このBrは適・不適

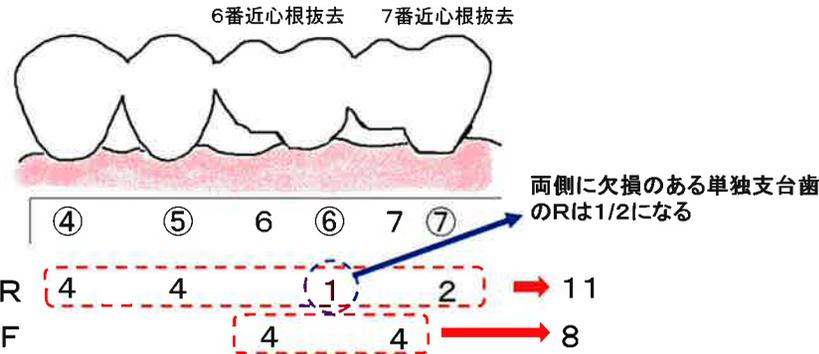
【下顎ケース3】



条件aを  $6 < 10$  で満たさない

→ このBrは適・不適

【下顎ケース4】

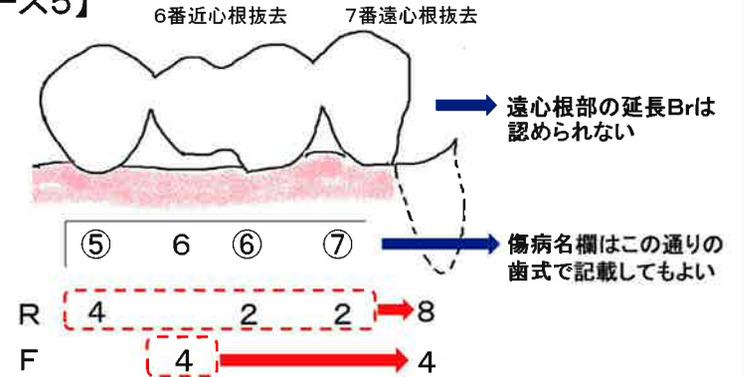


条件aは  $11 \geq 8$  で満たす

条件bも 8ではなく4を3で割る  
 $4 \cdot 5$  は  $8 \geq 4/3(1, \dots)$  で満たす

$7$  は  $2 \geq 4/3(1, \dots)$  で満たす → このBrは **適・不適**<sub>37</sub>

【下顎ケース5】

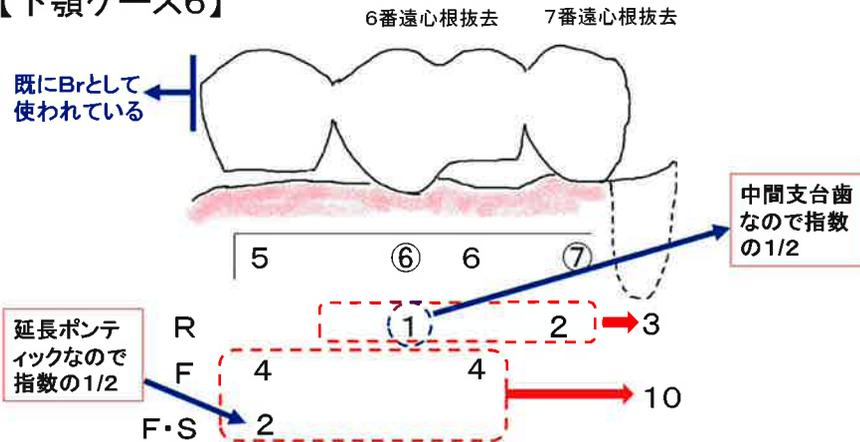


条件aは  $8 \geq 4$  で満たす

条件bも  $5$  は  $4 \geq 4/3(1, \dots)$  で満たす

$6 \cdot 7$  は  $4 \geq 4/3(1, \dots)$  で満たす → このBrは **適・不適**<sub>38</sub>

【下顎ケース6】



延長ポンティックの場合、条件bは  $6 \cdot 6 \cdot 7$  で判定しますが・・・  
 それ以前に条件aを  $3 < 10$  で満たしていないため

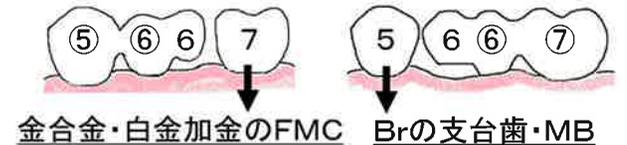
→ このBrは **適・不適**<sub>39</sub>

延長ブリッジ

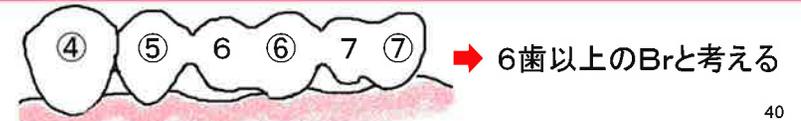
～分割抜歯後の取り扱い～

$5 \cdot 6 \cdot 6$  や  $6 \cdot 6 \cdot 7$  のような分割延長ブリッジは原則、認められない

ただし、以下の図のような場合は認められる



印象料・BT・リテーナー・装着料・補管における多数歯欠損 (6歯以上) か少数歯欠損 (5歯以下) かのカウントにおいて  $6 \cdot 6$  や  $7 \cdot 7$  等は2歯と数えてよい



お疲れ様でした